



「怒りは捏造」!?

グリーンランド地政学と
バドミントン脳死プレーの
意外な共通点

コートの中だけで 考えていませんか？

なぜ、スポーツの現場で「高市早苗氏の解散論」や
「グリーンランド」の話が出るのか？

それは、

「視野の広さ」こそが勝負を決める
からです。

常識の枠の中だけで生きていませんか？

今日は、あなたの「脳死プレー（思考停止）」を破壊する、
とてつもなく熱いレポートをお届けします。



衝撃の真実：

「いい人」は冷たい人かもしれない。

「相手の良いところだけを見る」。
一見素晴らしいこの行為は、実は「回避行動」です。

- 直視からの逃げ

相手の未熟さ、悪い部分を見ないふりをするのは、向き合うことから逃げている証拠。

- 自分勝手な理想

相手を「自分にとって都合のいい理想像」に押し込めていないか？

本当の温かさは、相手の未熟さも含めて直視すること。
「いい人」でいたいだけの自分勝手を捨てる。

なぜ大国は「氷の島」を奪い合うのか？



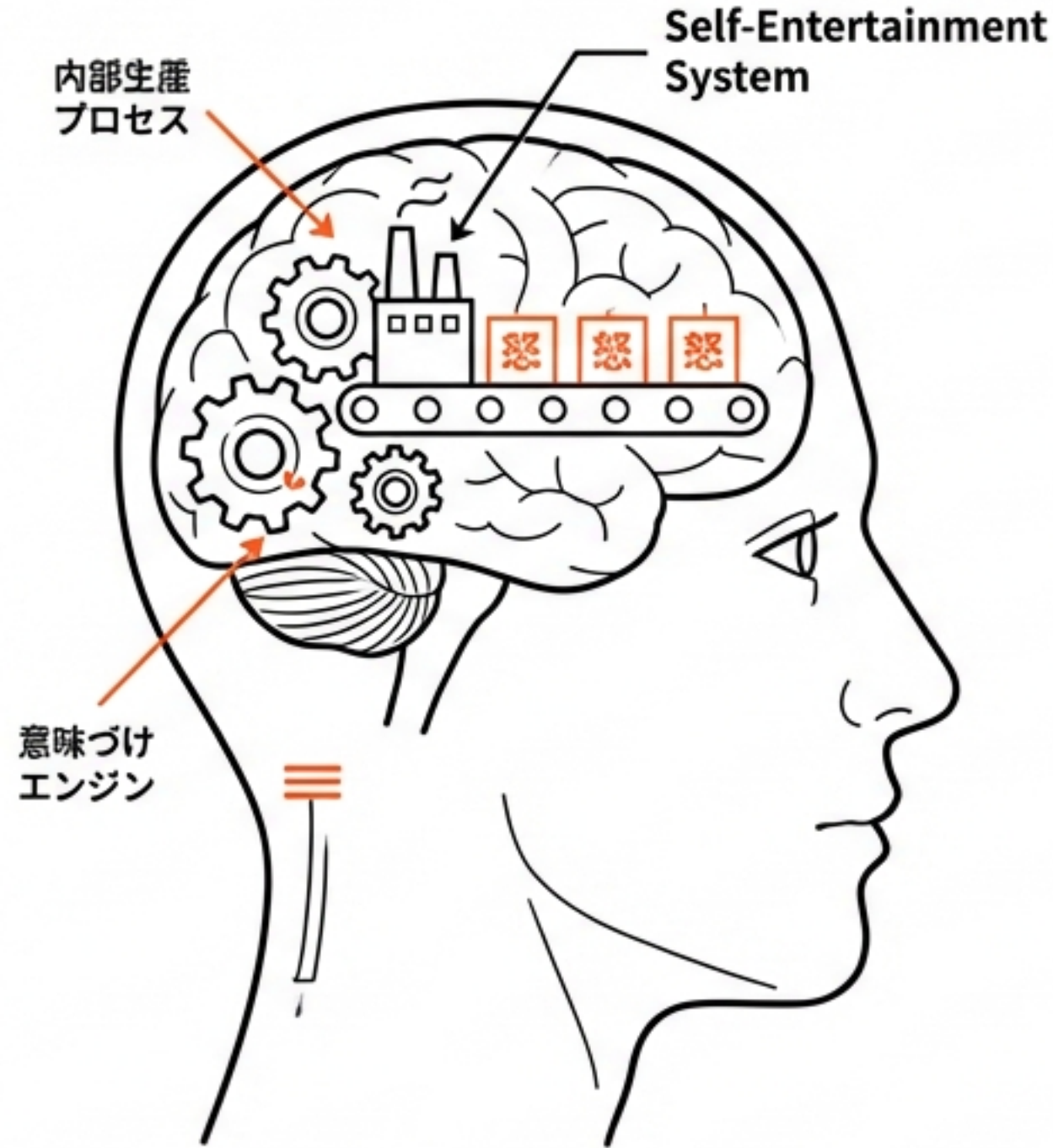
トランプ氏の「買収発言」はジョークではない。

勝つ人は、氷の下に眠る「**盤面全体**」が見えている。

グリーンランドの3つの価値：

1. 軍事：
ロシア・米・欧州の中心。
ミサイルの最短ルート。
2. 資源：
氷の下に眠るレアアース。
3. 物流：
温暖化による「氷のカーテン」消失。航路が40%短縮される。

Takeaway: 目先のシャトルだけでなく、世界の構造（コート全体）を見る視点を持つ



現代人の病理。「怒り」は存在しない。

コーチのSlack投稿が、私たちの常識を覆します。

- **怒りは捏造である**

「舐められた」と勝手に意味づけして怒っているのは自分自身。
怒りは外部から来るものではなく、自分が作り出す
「暇つぶしのエンタメ」に過ぎない。

- **自己肯定感は劇薬**

健全な人間が求めすぎると「今のままでいい」となり、成長が止まる。

**Action: 感情で自家発電するな。
そのエネルギーをプレーに向ける。**

警告：そのプレー、「脳死」になっていませんか？

01



ドロップ処理で
ラケットを引く

✕ 引く → 詰まる

○ 前に出せ

02



前衛がいなのに
安易なロビング

✕ 相手不在で上げる

○ 攻めさせるだけ

03



感覚頼みの
「タッチ（切る）」

✕ スライスは博打

○ 面を真っ直ぐ向ける

物理法則に従え。

動画分析で判明した、やってはいけない3つの「思考停止」プレー。

Meaning = 0

人生に意味はない。だからこそ、面白い。

「人生の意味回収フェーズ」なんて存在しません。
意味なんて、死んだ後にしかわからないもの。

「意味」を探して立ち止まるくらいなら、
「意味がない」と笑い飛ばして、目の前のシャトルを追え。
目の前の仕事に没頭しろ。

死ぬ時に「意味ゼロかよ！」と大笑いできる人生こそが、最強の生存戦略です。

明日から使える5つの生存戦略

- ☒ 1. 「いい人」をやめろ（逃げずに直視せよ）
- ☒ 2. ビジョンを共有せよ（仕事の分担より目的の共有）
- ☒ 3. 怒りは「捏造」と知れ（感情の自家発電を止める）
- ☒ 4. 人生の意味に期待するな（今この瞬間に没頭せよ）
- ☒ 5. 「脳死プレー」からの脱却（感覚より物理法則）

この熱量を、動画で体感せよ。

文字だけでは伝わらないニュアンス、実際のプレー動画解説、

そして中島コーチの生の言葉。

本気で変わりたい社会人のあなたへ。

「脳死」から目覚めるためのスイッチは、ここにあります。

▶ オンライン教室の動画リンクはこちら